

5歳児 H 児 事例⑧

児童名	性別	生年月日	担任	障がい・疾病等の状況	手帳の有無
近 畿一	男		3歳児：〇〇・△△ 4歳児：△△・□□ 5歳児：●●・□□	令和5年度 ・集団で行動することは難しい。 令和6年度 ・一人で遊ぶことを好む ・自閉スペクトラム症 令和7年度 ・ブロックやラキューが好きで、集中して遊ぶ。 ・初めてのこと、新しいことは不安になる。	身体障害者手帳 (手帳 級) 療育手帳 A ・ B1 ・ B2 精神障害者保健福祉手帳 1級・2級・3級 特別児童扶養手当 1級・2級
		入所年月日			
		R5.4.1			

医療・相談機関	関係機関からの支援や情報
---------	--------------

<p>令和3年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 〇区保健福祉センター (●医師) (◇心理職) <p>令和5年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 〇区保健福祉センター (○医師) (◇心理職) 06-6××-×××× <p>令和6年度</p> <ul style="list-style-type: none"> △△医療センター 児童精神科 (□医師) 06-×××-×××× 児童発達支援施設△△ 	<p>令和3年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年〇月〇日 1歳6か月児健康診査：呼名反応の薄さを指摘されるも、3歳児健診まで様子を見ることになる。 <p>令和5年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年6月〇日 3歳児健康診査：社会性における問診票の記載及び診察時の所見により、発達相談 (心理) につながる。以降、心理職によるフォローあり。 <p>令和6年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年〇月〇日 自閉スペクトラム症 (ASD) と診断。療育を勧められる。 令和6年9月より、大阪市の専門療育機関の利用登録を行い、おおむね2週間に1回の個別療育を受ける。(親子通園)
---	--

保護者の願い	支援の目標・内容
--------	----------

<p>令和6年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達と仲良く遊んでほしい。 <p>令和7年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達と同じことができるようになってほしい。 友達との関わりが増えてほしい。 	<p>令和6年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 気の合う友達ができ、一緒に遊ぶ楽しさを味わえるように、保育者が仲立ちしながら好きな遊びを一緒に楽しんでいく。 <p>令和7年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 体を動かす心地よさを感じられるように、興味・関心もてるようないろいろな遊びを準備する。 好きな遊びを通して友達との関わりが深まるように、一緒に遊ぶ楽しさや喜びを保育者も共感し、互いに認め合える活動を取り入れる。
--	---

この計画内容を確認しました。	令和 年 月 日	保護者名
----------------	----------	------

(就学前確認欄) この支援計画書を就学先小学校に引き継ぎすることに同意します。	令和 年 月 日	保護者名
---	----------	------

5歳児H児 事例⑧

(3 月 ~ 4 月)

(保育園)

児童名 近 畿一		家庭の様子：家にはブロックやラキューがないので、DVD や YouTube を見ていることが多い。夕食や入浴など、声をかけても見るのをやめることができないので、母親は困っている。			園長	担任(作成者)
クラス年齢 4歳児・5歳児						
項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題	
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロックやラキューが好きで、イメージ豊かにつくることを楽しんでいる。 ・遊んだあとの片付けは嫌がることが多く、次の活動に向かうのに、気持ちがのらないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・嫌がらずに片付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・片付けることにも気持ちがのるように、「どこまで作ったらおしまいにする?」「長い針が、3になったら片付けようね」などと、自分で区切りがつけられたり、見通しがもてたりする言葉をかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「まだ、できてない」「3はいや。9がいい。」と言う。 ・ほしいパーツがあると、何も言わずに友達のパーツを取ることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・このねらいは、保育者の願いが先行しており、適切ではなかった。 ・好きな遊びに集中できる姿を認める視点がないと、効果的な支援にはつながっていかない。 ・好きな遊びの中で、困りが見られているので、手立てを考える。 ・年度変わりの大きな行事が続き、緊張してはいたが、イメージを共有することで、当日は自分から、自分がどうしたいのか気持ちを伝えることができ、参加できた。 ・不安な気持ちを理解し、できることを一緒に考えていけるよう、思いに寄り添う支援を続けていき不安を和らげていく。 	
社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスみんなでする遊びや活動には、参加したがるが多い。 ・特に、初めてのことに取り組むのには、時間がかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5歳児を送るお祝い会や、新しい友達を迎えるお祝い会に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経験したことのない活動に不安なく取り組めるように、昨年度の写真や動画を見ながら、クラス全体でお祝い会のイメージを共有できる機会をもつ。 ・全部参加しなくても良いことや、できるところから参加すれば良いことを伝え、安心感をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真や動画は、興味をもって見ている。 ・他児が「これ、してる」「まえも、やった」と言っても黙っている。 ・当日は、「みとく」と言って、他児が歌ったり言葉を書いたりする様子を見ている。 		
この計画内容を確認しました。		令和 年 月 日			保護者名	

児童名 近 畿一		家庭の様子：祖父母に、ラキューを買ってもらい喜んでいる。DVDやYouTubeを見るよりも、ラキューで遊ぶことが増えた。			園長	担任(作成者)
クラス年齢 5 歳児						
項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題	
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロックやラキューが好きで、イメージ豊かにつくることを楽しんでいる。 ・片付けの前に声をかけられても、「まだ、できてない」「3はいや。9がいい。」と言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次の活動に見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次の活動に見通しがもてるように、視覚支援で示すとともに、好きな遊びができる時間も十分に保障し、満足感を感じられるようにする。 ・友達や保育者と安定した気持ちで過ごすことが見通しをもって生活することにつながっていくように、イメージ豊かにラキューやブロックでつくる様子を友達に知らせたり、共感したりして認めていく。 ・困っているときに、相手にどう言えばいいのか分かるように、どんな場面でも必要なら、必要な言葉を伝える。 ・困りを理解し、必要な言葉を伝えながら、保育者と一緒に、友達に伝えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スケジュールは見ている。 ・知っている活動が次にあると分かったら、片付けようとすることもある。 ・「(つくっている途中のものを) おいときたい」と、保育者に言いに来る。 ・「これ〇〇やねん」「うごくねん」と、友達や保育者に見せている。 ・取ってしまうこともあるが、友達に「あかん」と言われると、手を引っ込めている。 ・保育者と一緒に「かして」「ちょうだい」と言えたときに、貸してもらえると「ありがとう」と自分で言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚支援は有効で、ねらいは達成した。 ・知っている活動であることは安心感となるので、初めての活動を知らせる場合は、急に知らせず、前日や他児よりも先に知らせるようにする。 ・次月は、つくっている途中のものを置いておくことができる場所を準備する。 ・衝動的に、友達のパーツに手を出すことはあるが、無理強いするような姿はない。 ・手を出す前に「かして」等が自分から言えるように、褒め認める支援も行っていく。 	
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ほしいパーツがあると、何も言わずに友達のパーツを取ることがある。 ・お祝い会の写真や動画は、興味をもって見ている。 ・友達が「これ、してる」「まえもやった」と言っても、何も言わず黙っている。 ・お祝い会当日は、「みとく」と言って、他児が歌ったり言葉を言ったりする様子を見ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほしいパーツがあるときは、「かして」「ちょうだい」と伝える。 				
この計画内容を確認しました。		令和 年 月 日			保護者名	

5歳児H児 事例⑧

児童名 近 畿一		家庭の様子： 父親がつくったものを見て「すご〜い」と言ったり、「(同じものを) つくりたい」と言う。一緒につくったものを使って、ごっこ遊びになることもある。			園長	担任(作成者)
クラス年齢 5 歳児						
項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題	
生活 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・支援の必要はない。 ・日課が分かるようになり、自分から「次は〇〇やな」と言う。 ・初めての活動のときは、保育者のそばでなら、参加している。 ・つくっている途中のものに自分の名前を付けて置き、また続きをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に、ラキューやブロックでつくって見せあう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・つくったものを友達と見せあうことで、さらに楽しさを感じることができるように、遊びを見守りながら互いの様子をつないでいく。 ・互いの様子をつなぎながら、友達と一緒につくってみることも提案し、一緒につくったものができあがったときには保育者や友達と喜び合えるように、できあがったものを写真に撮って飾ったり、友達と一緒に事務所や他クラスに見せに行ったりすることを誘いかける。 ・相手の思いや考えを受け入れ、ときには折り合いをつけることができるように、「貸してもらえないときもあるよ。残念！」と言って、気持ちの切り替えを促していく。 			
この計画内容を確認しました。		令和	年	月	日	保護者名

5歳児 H 児 事例⑧ ポイント挿入

個別支援

5歳児H児 事例⑧ポイント挿入

(令和6年度 ~ 年度)

在園期間中、この1枚に年度ごとに追記するため、個別支援計画を作成し始めた年度から、就学前（5歳児）の年度まで、継続して追記していく。

氏名	性別	生年月日	担任	障がい・疾病等の状況	手帳の有無				
<p>関係諸機関及び担当者名を記入する。病院であれば主治医名、福祉機関であれば担当者名を記載し、連携がとりやすいように、連絡先も記載しておくを望ましい。</p>	男	入所年月日	3歳児：○○・△△ 4歳児：△△・□□ 5歳児：●●・□□	令和5年度 ・集団で行動することは難しい。 令和6年度 ・一人で遊ぶことを好む ・自閉スペクトラム症 令和7年度 ・ブロックやラキューが好きで、集中して遊ぶ。 ・初めてのこと、新しいことは不安になる。	身体障害者手帳（ 手帳				
		<p>「医療・相談機関」と「関係機関からの支援や情報」欄は、横を揃えて年度ごとに書く。</p>			<p>診断名だけでなく、年度ごとの特徴的な姿を記載する。子ども理解が進んでいく中で見えてくる、得意なことも記載することで、子どもの得意なことからもアプローチしていける。</p>				
医療・相談機関			関係機関からの支援や情報						
<p>令和3年度 ・〇区保健福祉センター（●医師）（◇心理職） 令和5年度 ・〇区保健福祉センター（〇医師）（◇心理職） 06-6××-×××× 令和6年度 ・△△医療センター 児童精神科（□医師） 06-×××-×××× ・児童発達支援施設△△</p>	<p>令和3年度 ・令和3年〇月〇日 1歳6か月児健康診査：呼名反応の薄さを指摘されるも、3歳児健診まで様子を見ることになる。 令和5年度 ・令和5年6月〇日 3歳児健康診査：社会性における問診票の記載及び診察時の所見により、発達相談（心理）につながる。以降、心理職によるフォローあり。 令和6年度 ・令和6年〇月〇日 自閉スペクトラム症（ASD）と診断。療育を勧められる。 ・令和6年9月より、大阪市の専門療育期間の利用登録を行い、おおむね2週間に1回の個別療育を受ける。（親子通園）</p>								
<p>「保護者の願い」「支援の目標・内容」も、年度ごとに記載していく。</p>	<p>令和7年度に、新たな関係諸機関や情報を得たら追記する。</p>								
保護者の願い	支援の目標・内容								
<p>令和6年度 ・友達と仲良く遊んでほしい。 令和7年度 ・友達と同じことができるようになってほしい。 ・友達との関わりが増えてほしい。</p>	<p>令和6年度 ・気の合う友達ができ、一緒に遊ぶ楽しさを味わえるように、保育者が仲立ちしながら好きな遊びを一緒に楽しんでいく。 令和7年度 ・体を動かさず心地よさを感じられるように、興味・関心もてるようないろいろな遊びを準備する。 ・好きな遊びを通して友達との関わりが深まるように、一緒に遊ぶ楽しさや喜びを保育者も共感し、互いに認め合える活動を取り入れる。</p>								
この計画内容を確認しました。	令和	年	月	日	保護者名				
(就学前確認欄)	この支援計画書を就学先小学校に引き継ぎすることに同意します。				令和	年	月	日	保護者名

この欄には、主観が入らないように気を付け、客観的事実を記載する。

支援の内容は教育的意図をもった働きかけを具体的に記載する。

就学前教育カリキュラム P64 「4歳児カリキュラム」、P68 「4歳児ラーニングデザイン」、P72 「5歳児カリキュラム」参照

保護者と共有して作成している場合は、就学前にサインをもらう。

5歳児H児 事例⑧ポイント挿入

個別指導計画

(3 月 ~ 4 月)

進級しても支援が継続しつなげていくことを目指すために、可能であれば「3月~4月」として、旧担任が作成できると望ましい。もち上がりであれば引き続き作成でき、担任が交代するのであれば、引継ぎの為のツールとしても活用したうえで、新担任が続けて作成していくことができる。

家庭の様子：家にはブロックやラキューがないので、DVDやYouTubeを見ていることが多い。夕食や入浴など、**声をかけても見るのをやめることができない**ので、母親は困っている。

園長

担任(作成者)

家庭での姿と施設での姿が共通していることを認識しておくことは、支援内容を考えるうえで大切である。

「具体的な状況」を踏まえて、「具体的な支援・手立て」がどうであったか、ということの評価して書く。

項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題
生活	<ul style="list-style-type: none"> ブロックやラキューが好きで、イメージ豊かにつくることを楽しんでいる。 遊んだあとの片付けは嫌がることが多く、次の活動に向かうのに、気持ちがのらないことがある。 	<p>「ねらい」は、保育者の願いでない!</p> <ul style="list-style-type: none"> 嫌がらずに片付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 片付けることにも気持ちののるよう、「どこまで作ったらおしまいにする?」「長い針が、3になったら片付けようね」などと、自分で区切りがつけられたり、見通しがもてたりする言葉をかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 「まだ、できてない」「3はいや、9がいい。」と言う。 「社会性」から「コミュニケーション」面の支援へ。 ほしいパーツがあると、何も言わずに友達のパーツを取ることがある。 写真や動画は、興味をもって見ている。 他児が「これ、してる」「まえも、やった」と言っても黙っている。 当日は、「みとく」と言って、他児が歌ったり言葉を言ったりする様子を見ている。 	<ul style="list-style-type: none"> このねらいは、保育者の願いが先行しており、適切ではなかった。 好きな遊びに集中できる姿を認める視点がないと、効果的な支援にはつながっていかない。 好きな遊びの中で、困りが見られているので、手立てを考える。 一定、ねらいは達成した。 年度変わりの大きな行事が続き、緊張してはいたが、イメージを共有することで、当日は自分から、自分がどうしたいのか気持ちを伝えることができ、参加できた。 不安な気持ちを理解し、できることを一緒に考えていけるよう、思いに寄り添う支援を続けていき不安を和らげていく。
社会性	<ul style="list-style-type: none"> クラスみんなでする遊びや活動には、参加したらないことが多い。 特に、初めてのことに取り組むのには、時間がかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 5歳児を送るお祝い会や、新しい友達を迎えるお祝い会に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 経験したことのない活動に不安なく取り組めるように、昨年度の写真や動画を見ながら、クラス全体でお祝い会のイメージを共有できる機会をもつ。 全部参加しなくても良いことや、できるところから参加すれば良いことを伝え、安心感をもたせる。 	<p>支援と手立てを行った結果、対象児にどのような状況が見えているのかを具体的に記載する。この欄には姿のみ記載し、評価や課題は記載しない。</p>	<p>ねらいが達成したかどうかを明記しておく。そのうえで、今後も対象児に寄り添った支援を続けていくことを記載しておくことで、誰が読んでも分かりやすい計画となる。</p>

「児童の姿」からくる困りを見極め「ねらい」を絞ることが大切。「ねらい」に応じた必要な「項目」を選ぶ。

「ねらい」は、保育者の願いでない!

「社会性」から「コミュニケーション」面の支援へ。

「なぜ？」を考える。

片付けたくない

できあがるまで作りたい

他の活動をするのは嫌

知らないことはしたくない

一人でいたい

何をするのか分からない

「支援と手立て」は、環境面と援助面の両面から考えることが望ましい。

支援と手立てを行った結果、対象児にどのような状況が見えているのかを具体的に記載する。この欄には姿のみ記載し、評価や課題は記載しない。

ねらいが達成したかどうかを明記しておく。そのうえで、今後も対象児に寄り添った支援を続けていくことを記載しておくことで、誰が読んでも分かりやすい計画となる。

この計画内容を確認しました。

令和 年 月 日

家庭での子どもの様子は、大切な情報の1つ。保護者との会話で聞いたことであっても、必ず記載する。

家庭の様子：祖父母に、ラキューを買ってもらい喜んでいる。DVDやYouTubeを見るよりも、ラキューで遊ぶことが増えた。

園長

担任(作成者)

前月からのつながり

教育的意図 保育者の願い、子どもに育みたいこと
働きかけ 環境づくり、関わり、言葉かけ

「具体的な状況」を踏まえて、「具体的な支援・手立て」がどうであったか、ということの評価して書く。

クラス年齢 5 歳児

項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て
生活	<ul style="list-style-type: none"> ブロックやラキューが好きで、イメージ豊かにつくることが楽しんでいる。 片付けの前に声をかけられても、「まだ、できてない」「3はいや。9がいい。」と言う。 	<ul style="list-style-type: none"> 次の活動に見通しをもつ。 	<p>就学前教育カリキュラム P77 「5歳児ラーニングデザイン」参照</p> <ul style="list-style-type: none"> 次の活動に見通しがもてるように、視覚支援で示すとともに、好きな遊びができる時間も十分に保障し、満足感を感じられるようにする。 友達や保育者と安定した気持ちで過ごすことが見通しをもって生活することにつながっていくように、イメージ豊かにラキューやブロックでつくる様子を友達に知らせたり、共感したりして認めている。 困っているときに、相手にどう言えばいいのか分かるように、どんな場面でどんな時に困っているのかを見極めながら、必要な言葉を伝える。 困りを理解し、必要な言葉を伝えながら、保育者と一緒に、友達に伝えていく。
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ほしいパーツがあると、何も言わずに友達のパーツを取ることがある。 お祝いをもって見ている。 友達が「これ、してる」「まえてもやった」と言っても、何も言わず黙っている。 お祝い会当日は、「みとく」と言って、他児が歌ったり言葉を言ったりする様子を見ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ほしいパーツがある時は、「かして」「ちょうだい」と伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者と一緒に「かして」「ちょうだい」と言えた時に、貸してもらえると「ありがとう」と自分で言う。

プラスの姿と、課題になっている姿は分けて書く。1つの文章につなげてしまうと、プラスの姿が見えにくくなる。

前月の「評価・今後の課題」で、①保育者の願いが先行していたこと ②好きな遊びに集中できるプラス面を認める視点が必要、と記していることから、今月の「具体的な支援・手立て」は、教育的意図をもった働きかけを、より意識できている。

記載するときは、横のラインを揃えることを意識する。見やすい計画は読みやすい計画となる。

【コミュニケーションスキル】
お願いスキル
「取って」「かして」「ちょうだい」「教えて」など、お願いする言葉の使い方を知らせていく。

ASDの診断が出ていることを踏まえ、「変化への苦手さ」から強い不安を感じることを理解し、環境を整えることや、前もって情報を伝えるなどの手立てを考えることは、非常に重要である。

スケジュールは見ている。
知っている活動が次にあることが分かったら、片付けようとすることもある。
「(つくっている途中のものを)おいときたい」と、保育者に言いに来る。
「これ〇〇やねん」「うごくねん」と、友達や保育者に見せている。
取ってしまうこともあるが、友達に「あかん」と言われると、手を引っ込めている。

手を出す前に「かして」等が自分から言えるように、褒め認める支援も行っていく。

「褒められる経験をたくさんできるような支援を考える。

4.5歳児では、意図的に「認識」面のねらいを入れておくほうが望ましいが、「ねらい」は多くても2つまでにし、スモールステップで達成できるねらいを立てる。

前月からの
つながり

近畿一

家庭の様子：一人で黙々とラキューでつくっていたが、休日に父親が興味を示すと、「こうやって、つくねん」「これは、OOやねん」と、嬉しそうに父親に教えている。

園長 担任(作成者)

次月につなげることを意識して「評価・今後の課題」欄を書く。

クラス年齢 5 歳児

施設と同じ姿が、家庭でも見られていることを保護者と共有・共感することは、友達との関わりを広げていくことが期待でき、好きな遊びを通して、コミュニケーション面における困りを軽減していくことにつながる。

項目	児童の姿	ねらい	具体的な状況	評価・今後の課題	
生活	<ul style="list-style-type: none"> 次の活動のスケジュールは見ている。 知っている活動が次にあると分かると、片付けようとすることもある。 ラキューやブロックでつくっている途中のものを、「おいときたい」と、保育者に言いに来る。 	<ul style="list-style-type: none"> 見通しをもって生活する。 	<p>「具体的な支援・手立て」は、環境面と援助面の両面から考えることが望ましい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 見通しをもって生活が送れるように、日課を大切にし、日常と違う活動が入るときには、前もって知らせるようにする。 遊びの区切りをつけても、また続きができるように、つくっている途中のものを置く場所をつくり、クラス全体に知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日課が分かるようになり、自分から「次はOOやな」と言う。 初めての活動のときは、保育者のそばでなら、参加している。 つくっている途中のものに自 	<ul style="list-style-type: none"> 見通しと区切りをつけることができる環境により、ねらいは達成した。 不安な気持ちになることがあることを理解し、引き続き寄り添っていく。
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ほしいパーツを取ってしまうこともあるが、友達に「あかん」と言われると、手を引っ込めている。 保育者と一緒に「かして」「ちょうだい」と言えたときに、貸してもらえると「ありがとう」と自分で言う。 「これOOやねん」「うごくねん」と、ラキューやブロックでつくったものを友達や保育者に見せている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「かして」「ちょうだい」と、友達に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ほしいパーツがあるときは、言葉で伝えることができるように、言おうとしている姿を見守り、必要に応じて保育者も一緒に友達に伝える。 相手の思いを受け入れたり、共感したりできるように、保育者が仲立ちし、手を出さずに「かして」等が言えたり、自分から「ありがとう」と言えたりしたときには認め褒める。 	<p>「お願いスキル」を育てつつ、友達にも思いがあることを伝えていくが、ASDの特性として、相手の気持ちが分かりにくいということを理解し、どのような支援が有効かを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手によっては言いにくいときもあるが、保育者と一緒に言うことができるようになる。 手を出したり、無理に取ったりする姿はなくなり、貸してもらえると自分から「ありがとう」と言う。 貸してもらえないと、涙を浮かべている。 続きをつくって完成する。 事務所や他のクラスへ行く。 	<ul style="list-style-type: none"> 一定、ねらいは達成した。 言葉で伝えることができたことを認めることで、困りが軽減し、応えてくれた相手に対して自然と感謝の思いを抱いている。その思いを大切にしながら、<u>ときには、思いが通らないこともあることを知らせていく。</u> 得意なこと、好きなことを通して世界が広がっていきこうとしているので、他の職員とも連携して共感できる機会を増やしていく。

お願いスキル

様子を良く観察し、タイミングを逃さずに意識して褒める。

就学前教育カリキュラム P73、P77 「5歳児ラーニングデザイン」参照

「具体的な状況」から「評価・今後の課題」を出し、次の「ねらい」に、どう生かしていくかを考える。ここで具体的な評価をしておくと、次のねらいにつなげていきやすい。

この計画内容を確認しました。

令和 年 月



近畿一		家庭の様子：父親がつくったものを見て「すご〜い」と言ったり、「(同じものを) 作りたい」と言う。二		園長	担任(作成者)
5 歳児		緒につくったものを使って、ごっこ遊びになることもある。			
項目	児童の姿	基本的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題	
生活	<ul style="list-style-type: none"> 支援の必要はない。 日課が分かるようになり、自分から「次は〇〇やな」と言う。 初めての活動の時は、保育者のそばでなら、参加している。 つくっている途中のものに自分の名前を付けて置き、また続きをしている。 	<p>基本的な生活習慣が身に付いているかどうかは、対象児の姿を知るうえで重要な内容となる。生活習慣が一定身に付き困りが無い場合でも、「生活」の項目をあげ『支援の必要はない』と記載しておくことで、保護者を含む、対象児と関わる全ての大人が共通認識できる。</p> <p>また、いずれ、困りが見えてくることもあるので、その時には、ねらいにあげて支援する。</p>	<p>一人よりも、相手がいることでさらに世界が広がり楽しくなることを、父親との遊びで体感している。施設においても、保育者が互いのイメージや思いをつなげることで、好きな遊びを通じて、友達関係の広がりを支援していける。それにより、意欲的な生活を送ることができることを目指す。</p>	<p>「具体的な状況」を踏まえて、「具体的な支援・手立て」が子どもの姿やねらいに合っていたのかどうかを、評価として記載する。上手くいったことも評価としてきちんと記載しておくことが重要。</p>	
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 相手によっては言いにくい時もあるが、保育者と一緒に「かして」「ちょうだい」と、言うことができるようになる。 貸してもらえないと、涙を浮かべている。 手を出したり、無理に取ったりする姿はなくなり、貸してもらえると自分から「ありがとう」と言う。 続きをつくって完成すると、事務所や他のクラスに見せに行く。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に、ラキューやブロックでつくって見せあう。 ASD の特性と、対象児の困りを理解したうえで、折り合いのつけ方を知らせる支援や手立ても必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> つくったものを友達と見せあうことで、さらに楽しさを感じることができるようになり、遊びを見守りながら互いの様子をつないでいく。 互いの様子をつなぎながら、友達と一緒につくってみることも提案し、一緒につくったものができあがったときには保育者や友達と喜び合えるように、できあがったものを写真に撮って飾ったり、友達と一緒に事務所や他クラスに見せに行ったりすることを誘いかける。 相手の思いや考えを受け入れ、時には折り合いをつけることができるように、「貸してもらえないときもあるよ。残念！」と言って、気持ちの切り替えを促していく。 	<p>「具体的な支援・手立て」を行った中での子どもの姿を具体的に記載する。</p> <p>この欄には姿のみ記載し、評価や課題は記載しない。</p> <p>新たに見えてきた子どもの姿があれば記載しておくことで、次のねらいにつなげていける。</p>	<p>「ねらい」が達成できたのか、できなかったのであれば、その原因は何か、次にどのように改善していくのか、ということを必ず記載する。</p> <p>ねらいが達成できたときは、次の方向性(ねらいとして置こうと考えること)について記載しておくことで、計画がつながっていく。</p>
前月の「具体的な状況」に記載した姿と同じ内容を、より具体的に書くことで、つながりのある計画になる。		前月からのつながりを意識して、記載も横のつながりを意識する。		日	保護者名